

知床エコツーリズム戦略の見直しについて

1. 2023年度第1回エコツアーWGにおける主な意見

(1) 遺産管理計画の見直し検討との整合性

- ・ エコツアー戦略の見直しにあたっては遺産管理計画見直し検討との整合性・連動性が重要

(2) 提案制度について

- ・ 提案制度はエコツーリズム戦略の根幹であり、地域が主体的にプランをつくり専門家や行政と議論し実現していく素晴らしい制度である
- ・ この制度を活かしていくためには、遺産管理者に明瞭な利用の方針や来訪者の管理についてのポリシーが求められ、地域の事業者はそれに合致する形で提案できるようにすべき
- ・ 地域からの提案は、客観的に支持されているのか公的に確認した上で、合意された提案への支援やコミュニケーションが必要
- ・ 提案承認の可否は、地域関係団体及び関係行政機関が判断し、専門家は助言する立場であること明確にすべき
- ・ 自然公園法における新たな制度である自然体験活動促進計画を活用し連携させることで、提案制度にメリットを付与できる可能性が生まれる（環境省）

(3) 検討会議の進め方

- ・ 検討会議の役割は承認や報告を主としてきたが、これらに加えて、提案内容がまだ漠然とした段階から意見交換できる場としてはどうか
- ・ その中で、過年度に地域で検討されたゾーニングイメージ（案）の実現に向けた意見交換や議論ができればよい
- ・ 検討会議では専門家から情報提供やプランの提案があってもよく、また関係者の判断に基づいて委員の構成や座長の選出が柔軟になってもよい

(4) その他

- ・ 知床でのエコツーリズム戦略を考えていくためには、利用の上質化や高付加価値化等の観点も含め、知床の価値をどのように伝えていくべきか構成員間でコミュニケーションを深めることが、重要なステップになる（環境省）

2. エコツアー戦略の見直し方針（ポイント）

（1）既存の各種計画との関係性を整理

- ・ 見直しが先行する遺産管理計画では、エコツーリズム推進の柱としてエコツアー戦略に基づく管理を基本方針として位置づけ、個別の管理方策はエコツアー戦略に記載
- ・ 適正利用に係るゾーニングは、遺産管理のための地域区分（別紙1）を原則とする。さらに国立公園管理計画の地域区分や過年度の懇談会によるゾーニング案（別紙2）を踏まえ、エコツアー検討会議で整理を進め、エコツアー戦略への反映を想定する。
- ・ エコツアー戦略の見直し完了後、各種の計画及び心得についても落とし込みと整理の検討を開始する。

（2）「知床らしい良質な自然体験の提供」に関する記述の追加

- ・ 知床の価値を明らかにし、これを来訪者に伝える戦略を、インタープリテーション全体計画の要素を踏まえて追記

（3）リスク管理に関する項目を追加

（4）コミュニケーションの円滑化

- ・ ヒアリングや戦略見直しの議論を通して、構成員間のコミュニケーションや共通認識が向上することを期待

（5）提案制度のメリットを明確化

- ・ 管理機関への相談のワンストップの場
- ・ 自然体験活動促進計画、エコツーリズム全体構想等の作成も検討

3. 今後の進め方（案）

（1）提案制度の主体となるエコツアー事業者に対し、利用の現状や課題、意向等の把握を目的にヒアリングを実施中（別紙3）

（2）2023年度は、戦略の見直し方針や構成見直し（案）を対象に、検討会議及びメールベースで意見交換

（3）2024年度以降、検討会議において具体的な記載事項の検討を進め、改定（案）を作成

（4）検討会議にて最終案を確認後、改定完了

【別紙1】遺産管理計画における地域区分

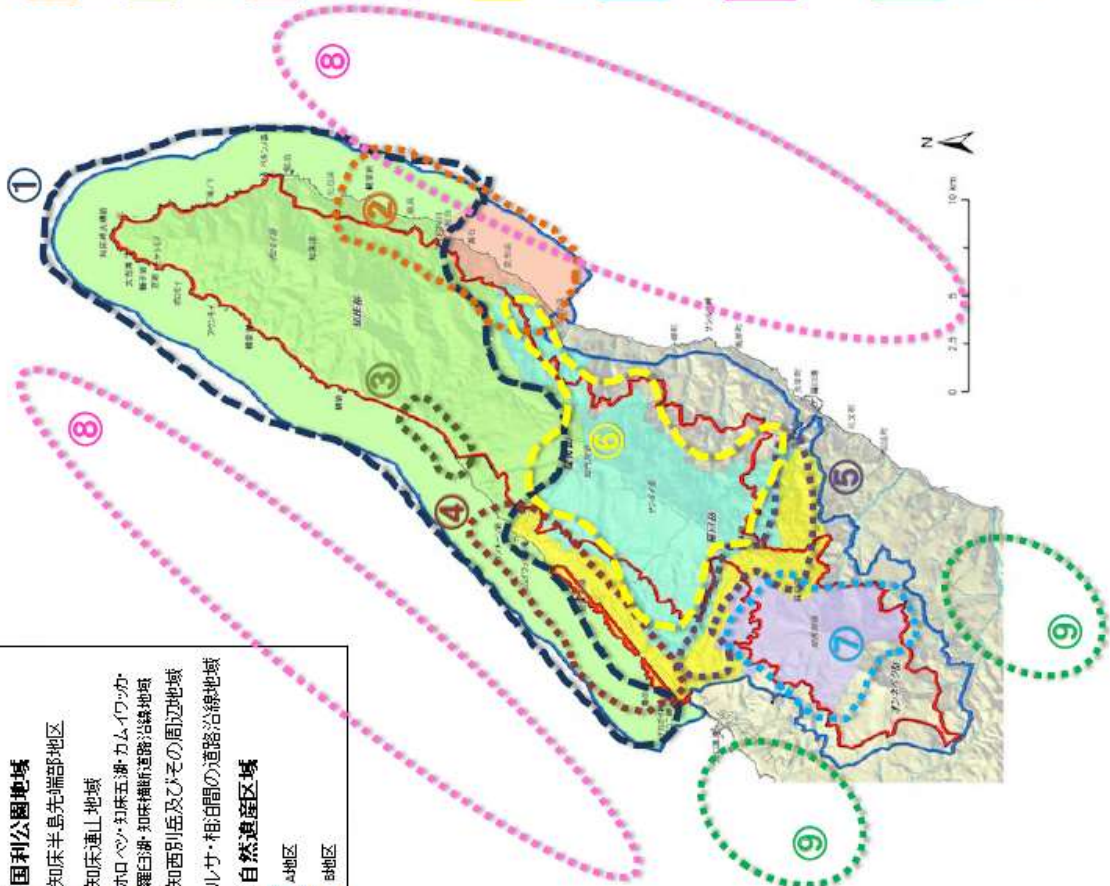
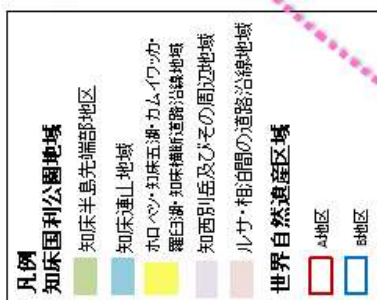
<知床世界自然遺産区域図>

<参考：他の保護区等区域図>



【別紙2】過年度の懇談会によるゾーニング(案)

2017年~2018年度開催「知床国立公園利用のあり方に関する懇談会」
資料:ゾーニングとイメージ(案)より抜粋



①先端部地区全域 (冒険と原生の旅)

容易にアクセスできるフィールドでのアクティビティやスポーツ的登山、トレッキングとは一線を画した「冒険と原生の旅」。ヒグマの出会いや険しい地形、荒れる海のリスクを乗り越えて、野営しながらたどり着く感動の到達感、日本離れした大風原と非日常の神秘感を提供することに特化する。旅の過程で、豊かな海を糧に生きる人々との出会いや交流も大切な思い出となる。

②羅臼側先端部海岸線ルサ～観音岩 (番屋の営み、フィッシュリヤーツーリズム)

羅臼の豊かな海を糧に、「番屋」という知床ならではの営みの場における暮らしを積極的に発信。浜に籠ざせて生きる人々との出会いや交流も重要な体験要素とする。

③先端部地区ルシャ (知床の核心を見る、ワイルドライフウォッチング)

サケマスの遡上・産卵とヒグマや猛禽類などの捕食による陸と海の繋がりを、世界遺産の核心を学ぶ。圧倒的なヒグマ体験、全国で稀なクマ問題への普及啓蒙の場、人々を思考停止にしている恐怖の猛獣という頭脳を解き、自然な生き様を知る場とする。共存の道を模索するきっかけ作りの場とする。

④ホロベツ・知床五湖・カムイワッカ (多様な知床体験ニーズに応える)

観光バスやシャトルバスを利用した周遊観光から、比較的手軽なバックカントリー利用まで多様なニーズに応えることができる地域として活用していく。標準化させることなく他と差別化した知床独自の体験を提供する工夫、ヒグマ等との軋轢回避対策が求められる。

⑤羅臼湖・横断道路沿線地域 (知床の景観を楽しむ手軽な周遊観光と羅臼湖での奥知床体験)

車両を利用した周遊観光から、2時間程度で比較的手軽な高山バックカントリー体験が可能な羅臼湖、深い森を味わうことのできるボンホロ沼などを楽しむ。

⑥知床連山地域 (知床を象徴する山並み、両側に海を眺む希有な山岳体験の場)

海にそそり立つ連山の稜線に到達する満足感。眼下の両側は海、はるか国後島・エトロフ島までの眺望は、他では得がたい感動を得ることができる。広大なハイマツ帯や雲田群落の高山植物も知床の山の魅力である。基本的に中級以上の登山者を対象とした山域として管理し、必要以上の整備は行わない。

⑦知西別岳及びその周辺地域 (人気の少ない知床らしい山域、残雪期のアウトドアフィールドとしての展開を促す)

羅臼湖入口へのアクセス方法を検討できれば、残雪期のすばらしいフィールドになり得る。根室海峡にめがけて滑り下る知西別岳から湯ノ沢までのロングダウンヒルコースは感動もの。

⑧先端部地域沿岸海帯 (シヤチ、マッコウが躍動する感動海峡、火山と流氷が削り出した断崖絶壁、渚のヒグマは珠玉の思い出となる)

ウトロ～知床岬に続く絶壁と大風原、海岸で見るヒグマや猛禽類、海鳥など野生との出会いの濃さは知床ならではの。豊饒の海、根室海峡はシヤチやクジラ、イルカなど大型海洋哺乳類との感動の出会いの場。大型猛禽、トド、アザラシ類を対象とする冬期の観光船事業も充実が望まれる。

⑨半島基部 斜里岳・海別岳山麓 (雄大な農業景観と知床ならではの背景の組み合わせは感動を呼ぶ)

斜里平野から周辺の山間野山麓部については、人気の観光地である高島野盆地周辺に出して勝るとも劣らない美しい風景を有している。また、豪浜地区の広大な牧草地とほかに望む根室海峡・国後島の風景も実は大きな滞在性を有している。しかし、そこに欠けているのは来訪者をもてなす仕組みや人の存在、そして魅力的な「食」である。高地域で生産される知作物や畜産物、そして知床ならではの海の幸を漁獲した形で提供できる高泊施設・レストラン等を展開し、知床の観光の新たな分野を切り開く。乗馬やスノーモービルツーリングコースの設定など、国立公園内では難しいアクティビティの展開も可能だろう。

【別紙3】

知床国立公園エコツアー事業者ヒアリングシート

日頃よりお世話になっております。

環境省では知床国立公園における観光利用の推進により、自然環境を保全しその価値を向上しながら知床らしい良質な自然体験を提供し、あわせて持続可能な地域社会と経済の構築を図るため、知床エコツーリズム戦略（以下「エコツアー戦略」という。）を策定しています。

今般、10年目を迎えるエコツアー戦略及びその実行体制としての適正利用・エコツーリズム検討会議を見直すにあたり、知床国立公園をフィールドとする観光事業者（以下、エコツアー事業者という。）の皆様の現状、課題、提案等の把握を目的に、以下の内容にてヒアリングを実施させていただきます。ご提供いただいた回答は今後の検討業務に活用し、また個人情報等については、本業務以外の目的には利用しないことをお約束します。なお、誠に勝手ながら、回答期限を 2023年11月2日（木） とさせていただきます。

添付資料：知床半島の利用に係る将来のゾーニングイメージ（案）について
（2019年度第2回適正利用・エコツーリズム検討会議・資料4-3別紙①②）

1. 基本情報

団体・事業者名		
所在地	斜里町 ・ 羅臼町 ・ その他（ ）	
関連団体への所属 （複数選択可）	知床ガイド協議会・知床五湖登録引率者・斜里町観光協会 羅臼町観光協会・その他（ ）	
記入者	（お名前）	（連絡先 TEL）

2. 提供中のコンテンツについて

主なカテゴリー （複数選択可）	トレッキング ・ 日帰り登山 ・ テント泊登山 ・ スノーシュー ・ 冬山登山 ・ 野生動物ウォッチング（ナイトサファリ除く） ・ サケ遡上観察 ・ 沢登り ・ 川釣り ・ 海釣り ・ 星空観察 ・ ナイトサファリ ・ 左記以外のナイトツアー（ ） ・ サイクリング ・ 流氷体験 ・ カヤック ・ SUP ・ ダイビング ・ シュノーケル ・ 観光船 ・ 遊漁船 ・ 遊覧飛行 ・ 産業文化歴史 その他（ ）
特筆すべきコンテンツ （自由記入）	

3. 利用者数・客層

年間利用者数 （外国人利用者数も）	
主な客層 （例：家族連れ、団体）	

4. 国立公園の利用状況と意向の把握

添付の参考資料は、2019年度第2回適正利用・エコツーリズム検討会議における資料の再掲となります。資料内の①から⑨のゾーニングをご覧いただき、利用中及び将来的に利用を考えたいエリアについて○でご回答ください。

ゾーニング種別	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
現在利用中のエリア									
将来的な利用エリア									

5. 活用しているもしくは検討している補助金等（国・地方自治体・民間）

--

6. 意見・要望

国立公園・世界遺産の管理・運営に対する意見や提案
新しいサービスや活動の提案
公園利用に関する障壁や課題感
適正利用・エコツーリズム検討会議の提案制度に期待すること